

久留米

〔March 19, 2020〕

## 高専通信

第90号

久留米工業高等専門学校  
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1  
TEL:0942-35-9300  
<http://www.kurume-nct.ac.jp/>



久留米工業高等専門学校  
校長 三川 譲二

## 卒業生・修了生に贈ることば 「自立の精神」について

本科卒業生・専攻科修了生の皆さん、ご卒業・修了おめでとうございます。

本校の教育理念が、「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」であることは、よく承知されていることと思います。「自立の精神」(Spirit of Independence)、「創造性」(Creativity)、「広い視野」(Broad Vision)、「豊かな心」(Humanity)そして、「社会貢献」(Contribute to Society)、そのいずれもが、社会にとって有為なるエンジニアの育成を使命とする高等教育機関である久留米高専の教育の根幹をなす大切な考え方であり、皆さんは、この教育理念に基づいて周到に用意されたエンジニア育成のためのプログラムを、正課においても、課外においても、立派に修得され、卒業・修了という佳き日を迎えられました。

平成10年8月31日に当時の谷口宏校長先生(第5代)に提出された「教育理念検討委員会答申」(委員長入江和隆教授・現小郡市議会議長)には、「『広い視野』には国際性も、『豊かな心』には環境に対して取り組む姿勢も含まれると解釈」できることが付記され、さらに理念を補足説明する文章として「社会に貢献できる技術者には、社会性と豊かな感性を兼ね備えた人間性の涵養が求められる。また自立の精神をもって積極的に学習に取り組み、物づくりの体験(実験・実習ならびに各種コンテスト等への積極的な参加、即ち社会との接点を持った教育体験)を通じた独創的で実践的な技術者の育成を目的とする。」が掲げられています。

この教育理念の中で、学生の皆さんにも、教職員の方々にも、最も愛唱されてきたのは、「自立の精神」(Spirit of Independence)ではないかと思えます。しかしながら、この「自立の精神」を真の意味で貫くことは、必ずしも容易ではありません。「自立」とは、自らの力で考え、判断し、行動できることだと言ってよいでしょう。しかし、そのことで、ともすると、社会の中で「自我」を押し通すこと

や「孤立」することに陥ってしまうことがあります。「自立の精神」は、そうしたことは全く無縁だと言えます。

エンジニアリングやテクノロジーは、社会の中で成立し、社会に役立つことを目指しています。教育理念の補足説明が言うように本校が育成をめざす技術者が備える「自立の精神」は、「社会との接点を持った教育体験」を通して育まれ、最終的には「社会貢献」に繋がるものでなければなりません。

哲学研究者の村田純一先生は、第二次世界大戦直後に非業の最期を遂げた哲学者三木清の「技術哲学」を語る中で、「技術倫理」「工学倫理」という言葉がしきりと用いられるようになっている現代から振り返って見ると、興味深いのは、三木が技術の社会性を強調すると同時に、いちはやく技術と倫理、技術と道徳のあいだの内在的関係をとらえていた点である。「…技術は一定仕方で倫理を要請することが指摘される。言い換えると、技術を習得することは必然的に一定の行為の仕方を学ぶことであり、それはすなわち一定の規範を学ぶことでもある。ゲーテが『ウィルヘルム・マイスター』のなかで人間の道徳的感性に対して技術のもつ意義を強調していたように、人間は技術に従事することによって一定の徳を学ぶことができる点が指摘される」と述べています(『技術の哲学』)。すなわち、技術を学ぶことによって、技術そのものの規範とともに、倫理や道徳等の社会的規範をも修得することになるということであり、それは、自ら考え、判断し、行動すること(自立)が、自らの行為を自らの規範で律すること(自律)へと飛躍(質的変化)したことを意味しています。

卒業生・修了生の皆さんが、今後、皆さんの学び舎であった久留米高専の教育理念の「自立の精神」を思い返す時、「技術者倫理」の必要性や「社会貢献」についても考えを巡らせ、さらには、結果的に「自立」が「自律」と同義となることを肝に銘じることを願っています。

卒業生・修了生の皆さん、実業の世界に進むにせよ、学術の世界に身を置くにせよ、「自立」し「自律」できる主体として他者からの信頼を勝ち得、他者と共存、共生、共栄し、「社会貢献」をしていかれますよう心より祈念します。ご研鑽あれ!

## 卒業生の言葉

## 先輩の背中を追って

機械工学科5年 奈須 匡哉

「高専って5年もあるのか・・・長いな・・・」そう思っていた入学当初から今にいたるまでの5年間、ほんとにあっという間でした。でもゆっくり振り返るとこの5年間は、後にも先にもない密度の濃い時間だったなと思います。特に、自分とはどういう人間なのか、を考える期間でした。

久留米高専では多種多様かつ超個人的な人たちに会うことができました。クラスメイトに、先生、55期のみんな、濱野君や井上将豪君・・・とにかく毎日が刺激的でした。しかし、「じゃあ自分にはどんな魅力があるのか？みんなに友達と思ってもらえるのか？」と悩むようになりました。それはきっと、同級生がより魅力的になったり、後輩ができて先輩になったりして、「魅力的な人間でいなくちゃいけない」と背負いこんでしまったからだと思います。自分という人間がどういう人間なのか分からなくなりました。そのことを隠すために、表では変に見栄や虚勢をはる自分がいました。その悩みをモヤモヤと抱えたまま過ごしていました。

しかし、5年生になった時くらいに、ようやく答えを出すことが出来たような気がしました。それは、僕は「普通の人」だということです。秀でた運動能力や頭脳があるわけでもない、特技もない。そのことを受け入れると、自分を大きく見せようとしたり、他人に必要以上に媚びたりすることがばかしくなり、愚直で素直にしよう、と思えるようになりました。受け入れられるようになったのは自分を認めてくれた友達のおかげであり、間違いなく成長であると自分では感じています。また、そうなれたのも、悩んだ日々があり、それを支えてくれた友達がいたからです。結局僕が言いたいことは、僕はそんな友達を持ってよかった、ということです。友達とは、お酒、煙草、ギャンブル・・・世間ではよくないこともたくさん経験しました。それも含めてとにかく楽しい5年間でした！これからもこの関係が続けば、それは最高に幸せなことだと思います。

最後に、ご指導いただいた教員の皆様、最強な55期生のみならず、優しい後輩たち、5年間通わせてくれた尊敬する両親には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

## 日常

電気電子工学科5年 乗富 綾乃

久留米高専に入学して5年、クラスメイトに初めて会ったのが今から5年前、考えられません。ここで過ごした5年間を振り返り、もう一度高校受験をやり直せるといわれても私はまた久留米高専を受験するでしょう。そんな風に思うことができるのは、同じ目標に向かい共に汗を流した部活の仲間、そして5年間共に過ごしてきたクラスメイトの存在が大きいと思います。

私はバレーボール部に所属していました。きついことも多かったけど、楽しいことのほうが多かったように思います。先生方に怒られることもありましたが、時にはぶつかり合いながらも、仲間と一緒に努力し続けたことは私にとって大きな自信となりました。「学生時代に勉強以外で何を頑張りましたか？」と聞かれたら、迷うことなく「部活動です！」と答えるでしょう。部活動やバイトなど人それぞれだとは思いますが、在校生の皆さんもぜひ勉強以外に何か打ち込めるもの、「頑張った」といえるものを見つけてください。

そして、5年間同じ授業を受け、多くの時間を共に過ごしてきたクラスメイト。変なところで一体感を感じる、笑いの絶えないクラスです。研修旅行や体育祭、高専祭など忘れることのできない思い出がたくさんできました。しかし、4月からは就職や進学などでそれぞれ別の場所で生活していくこととなります。当たり前だった日常がなくなり、このクラスで授業を受けることがもうできないと思うと、とても寂しいです。毎日楽しく過ごすことができたのはクラスメイトのおかげです。このクラスの一員で本当に良かったと心から思います。ありがとう。

最後になりましたが、私たちを指導して下さった先生方をはじめ、久留米高専にかかわるすべての方々へ深く感謝申し上げます。久留米高専で学んだこと、多くの人との出会い、思い出を大切に、これからも強く生きていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

## 卒業生の言葉

## 55期制御情報工学科

制御情報工学科 5年 松隈 健太

入学当初は長いように感じていた5年の月日もあっという間に過ぎ去り、いよいよ卒業となりました。5年間の月日を過ごした55期制御情報工学科の仲間とも3月でお別れだということを実感するとともに、卒業したくないという思いが日々強くなっていくのを感じます。

私は、このクラスはとても個性的だったと思います。個性的ということは、裏を返せばあまり協調性がなかったということでもあったかもしれません。確かに入学してすぐのころはそういった面もありました。それにこれだけいろいろな人がいるクラスですから、人によって相性の良し悪しも当然あります。しかし、年を重ねるごとにクラス内の結びつきも強くなっていき、行事の際も普段の仲は別にしてみんなで協力しあえる、そんな素敵なクラスになっていったように思います。私は、この「なんやかんやありながらも特別なときには団結して、みんながそれぞれ自分にできることで協力しあえるところ」が55Sの長所だと、5年間を過ごして感じました。

15歳から20歳という、子供から大人になる大事な時間をこの学校で過ごしました。正直、普通高校に進学しておけばよかったと自身の進路選択を後悔するような辛いこともあったと思います。しかし、それ以上に幸せなこともたくさんありました。それはもう数えきれないくらいたくさんありますが、一番の幸せは、高専に入学したことでたくさんの仲間たちに出会えたこと、そしてその仲間たちと、5年間普通の日常を過ごせたことだと思います。

これから先、まだまだ未熟な私たちにはたくさんの試練が待ち受けていることでしょう。しかし、ここで学んだことを糧とし、久留米高専の卒業生という誇りを持って、胸を張って生きていきたいと思っています。

最後になりましたが、不出来な私たちをご指導してくださった先生方、サポートしてくださった学生課の方々、その他久留米高専に関わる全ての方々に感謝申し上げます。そして、どんなときも支えてくれた家族や、高専の仲間たちにも本当に感謝しています。たくさんの方に支えられ、助けていただいたおかげで今の私たちがいると思っています。

これからも、周りの人たちに感謝を忘れずに生きていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

## 高専生活を振り返って

生物応用化学科 5年 山根 奏太郎

気づけばもう、久留米高専を卒業する時期が来てしまいました。入学した頃は5年なんて長いと思っていましたが、今となっては少し物足りなくらいです。

自分の高専生活での1番の思い出は4年生のときの体育祭の看板作成です。最初は困難ばかりでした。人数も少なく絵心のある人もいなかったため、どこから手を付けたらいいのか、本当に期限内に完成するのか、など様々なことで悩み、グループ内で意見が衝突する日もあり、中々作業が進みませんでした。そんなある日、とりあえず一回全体を見てみようということになり、パネルを全て並べて上から眺めました。すると、それまではただの色がついた板にしか見えなかった所に、スーパーマンが今にもこちらに飛び出してきそうな勢いで現れたのです。大げさかもしれませんが、その時の自分たちの感動は凄まじく今でも鮮明に覚えています。そこから、「俺たちいけるぞ!」と勢いづき体育祭の本番までの日々を駆け抜けて行きました。当日の発表では最後まで名前が呼ばれずもうだめかなとも感じましたが、見事1位を取ることが出来ました。あんなに嬉しくて泣いた日は初めてで、神輿の上ではみんなのおめでとうという気持ちが伝わってきて胸がいっぱいになりました。

春からは、東京の学校に進学してこれまでとは全く違う生活がスタートします。高専での日々は楽しいことだけではなく、落ち込んだり悩んだりする日も多くありましたが、この様々な経験を生かし成長して、新しい生活を頑張っていきたいと思っています。

最後に、お世話になった先生方や同級生の皆さん、5年間ありがとうございました。



## 卒業生の言葉

## 結言

材料工学科5年 松浦 麦

入学当初、わたしは人生で初めて学校が楽しくありませんでした。慣れない100分授業、中学校からの友達も他中の知り合いもおらず、これで5年間通うことが不安でたまりませんでした。しかし、いつのまにか友達ができ、先輩・後輩との繋がりができ、今ではこの学生生活がもうすぐ終わってしまうことが寂しくもあります。

地元の友達には「5年間って長いね」とよく言われました。わたしもそう思っていました、思い返してみると本当にあっという間でした。よく言えば積極的に、悪く言えばなんにでも足を突っ込んだ5年間でした。特に今年度はまるで今までの集大成かのように看板長、応援団、体育祭実行委員など全てに足を突っ込みました。きっと迷惑をかけたことも一度や二度ではないと思います。そんなわたしを支えてくれたのがクラスの皆でした。

仲が格別に良いわけでも悪いわけでもなく、其々で交流を深めていくようなクラスなので、正直、今までの諸先輩方のようにクラス全体で和気あいあいと高専祭を作り上げることはないのかなと思っていました。ですが、そんな心配は杞憂に終わりました。夏休みの準備からみんな本当に協力的で、色々なことをやりすぎて手が回っていない自分が情けなくなるほどでした。卒業研究や日々の課題に追われ、やばいやばいといひながら準備した日々は今思うとかなり青春していました。

迎えた体育祭当日、応援2位、看板1位、総合2位というおそらく材料工学科史上最高の成績は協力してくれた皆の誰一人として欠けていたら達成できなかったと思います。当たり前を毎日過ごしすぎて忘れていた友達の大切さを教わりました。

長いようで短かったこの5年間、培ったたくさんの知識や思い出はわたしの貴重な財産となりました。ご指導いただいた先生方や支えてくれた家族、友人には本当に感謝しています。ありがとうございました。

みんな、卒業しても遊んでね！

## 修了生の言葉

## 怠けてサボった結果

機械・電気システム工学専攻2年 平川 智也

突然ですが、僕は良く言えば効率主義、悪く言えば面倒くさがりで厄介事は避ける人間です。本科5年生で1度、進路選択を迫られた、一夜漬けが上手で席次だけは良かった僕は見事、大学編入試験の推薦枠を手に入れました、が、落ちました。その時、既に専攻科には合格しており、志望していた大学への編入試験の一般入試は受けませんでした（「怠けてサボり」ました）。そんな「怠けてサボった」結果をここで述べようと思います。

「怠けてサボった」結果、生涯の友人ができました。研究室の同期2人とは3年間、苦楽を共にしました。研究で苦しいときも、それを乗り越えた際の打ち上げも、いつも一緒に「気心知れた」とはこのことを指すのだな、とつくづく思います。そんな2人には感謝しかありません。ありがとうございました。

「怠けてサボった」結果、東京大学大学院に合格しました。ただの自慢です。というのは嘘で、努力する癖がつきました。研究室の同期・同じ大学院を目指す同期に刺激され、どうやら僕には幾分かの誠実性が備わったようです。試験科目にTOEFLがあり、院試前の3か月程は毎日朝7時には登校し、コツコツと英単語覚えたり、英語のニュース見たり・・・と、人生の中で唯一本気で勉強したといっても過言ではありません。

「怠けてサボった」結果、研究できました。指導教員の黒木先生は僕に沢山の研究・学びの機会を与えてくださいました。怠ける暇もなくなり(笑)、タイ、シンガポール、台湾、その他国内各所の学会に参加させていただき、他では味わえない経験をすることができました。親身になって議論・指導していただき、ありがとうございました。

「怠けてサボった」結果の2年間は僕の人生で、大きな意味を持つ2年間となりました。来春から、成し遂げたいことに向かって頑張る糧となる2年間です。最後に、7年間の高専生活の中で関わってくれたすべての人に感謝します。ありがとうございました。

## 修了生の言葉

## 偉人から学ぶ

物質工学専攻2年 坂口 健太

「Education is what remains after one has forgotten what one has learned in school」という言葉を皆さんはご存知でしょうか。この英文の和訳は「学校で習ったことを一旦忘れた後、まだ身につけているもの、それが教育である。」というものです。これは私が最も偉大な人物と考えているアインシュタインが残した名言の一つです。私たちは7年間もの長い時間を久留米高専で過ごし、様々な知識を学んできました。しかし、学んだ内容を100%覚えているかと問われたら、「はい」と答えると嘘になります。ただし、きっかけがあれば再び知識として使用することは可能です。これは研究の考察時に顕著に実感できるもので、考察に躓いたら、まず教科書を手に取り、索引で調べたい内容のページを探すことから始めます。その後、開いたページに目を通すと、確かにこんなことも学んだなど教科書の内容が理解できることが大半です。このように教科書を読むだけで内容を理解できるというのはアインシュタインの言葉通り、教育を受けてきたからであり、この7年間はしっかり力になっていると実感しました。

アインシュタインといえばブラックホールの観測というニュースが耳に新しいと思います。ブラックホールの観測はあまり宇宙に興味のない人でも心躍らせたのではないのでしょうか。私はあまり物事に興味を持たない性格ですが、唯一、生きていく間に知りたい謎があります。それは宇宙のはじまりについてです。定説ではビックバンによるものとされていますが、何もなくビックバンが起きることはなく、宇宙のはじまりは、まだ多くの謎に包まれています。最初は無じゃなかったのか、最初から時間や空間という概念は存在したのかなど疑問が山積みです。このような好奇心は誰しもが、少なからず持っているものと思います。様々な偉人や先生方は好奇心について世の中を発展させることに必要不可欠なものとして述べています。そのため、これからの生活の中で抱く様々な好奇心を大切に、皆様と更なる成長を遂げていきたいと思っております。

## 退職教職員挨拶

## 退職にあたって

制御情報工学科 嘱託教授 綾部 隆



消えるように静かに去るつもりでしたが、退職の挨拶を書くことになりました。

1991年に九州大学機械工学科から本校に転任して28年間が経ちました。九大時代の2倍以上の年月を本校で過ごしたことになります。本校に着任したばかりの頃は自由で大らかでした。時代が寛容だった気がします。当時に比べると、教職員は忙しくなりました。

高専の将来は必ずしもバラ色ではありませんが、新しいこと、そして本当に良いものだけを取り入れて、本校の伝統を守ってほしいと思います。

最後に、教職員の皆様お世話になりました。そして、寛容だった学生諸君、OBの皆さんありがとう。

## 7年間有難うございました

一般科目(理科系) 特任教授 松田 康夫



平成25(2013)年4月に久留米高専に赴任して、それ迄勤めていた高校との違いを感じました。その違いを3つの単語で表してみました。

1. 「元氣」… 皆さんの気質+学校行事等が学生主導のせい?
2. 「協力」… 高専では実験や実習が多いせい?
3. 「丁寧」… グラフを丁寧に書く人が(割に)多いと感じました。製図を学んでいるせい?

今年3月に退職する迄久留米高専に7年間勤めました。楽しい思い出しかありません。江戸時代に和算が栄えた久留米で数学と関われたことも幸運でした。皆様方の暖かさに感謝します。

これからの皆様のご健康とご活躍を祈念します。

7年間有難うございました。

## お世話になりました

一般科目(理科系) 准教授 川嶋 克利



久留米に来たのは平成24年でした。縁もゆかりもない久留米で働くことに不安を覚えていましたが、一ヶ月もすれば杞憂に終わりました。優秀な学生、温かく接していただいた教職員に囲まれればさもありなん、です。

この度、久留米から関西へ戻ることにしました。新しい職場へ移ることで希望とやる気にあふれていますが、8年間お世話になった久留米を離れることはやはり寂しいものです。もっと学生と触れ合いたかった、もっと教職員の方々と仕事をしたかったと心残りでもあります。

来年度からは、久留米での経験を生かして新天地で頑張ることにします。最後になりましたが、久留米高専のみなさんのご多幸をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

## 退職教職員挨拶

## 時代のうねり

学生課長 前田 俊哉



「人間五十年、下天の内をくらぶれば、夢幻の如くなり」このフレーズをNHKドラマで耳にした中学生時代に「50かぁ、そこまで長生きしたら上出来かな」と思っていた。

今、60才になり定年を迎えている。平成元年に熊本電波高専へ奉職。当時はパソコンなど無く、クーラーも無い事務室の真ん中には緑色文字のワープロが1台だけあった。文部省からの業務依頼は郵送であり、1台しかないワープロを順番待ちで使い郵送で回答するという作業をしていた。のんびりした時代であった。昨今では、業務のほとんどをパソコンが大容量に迅速に処理している。できるなら、私もそんな「時代のうねり」をもう少しだけ見ていたい。

## 退職のご挨拶

教育研究支援センター 技術職員 田中 義規



教育研究支援室の田中義規です。このたび、3月末日をもちまして定年退職の運びとなりました。昭和53年に採用され42年、なんとか、無事に今日を迎えられたのはみなさまのおかげです。在職中はいろいろとお世話になりました、心より御礼申し上げます。

在職中の思い出は色々ありますが、一番は電気科の教職員が一丸となり戦った学内レクリエーションのソフトボールです。昼休みの練習は1週間前から始まり、試合後は居酒屋での反省会が開かれ色々な面白い話をお聞きました。

退職後は、運動不足解消に家庭菜園をする予定です。皆様におかれましては、健康に気をつけて益々のご活躍をお祈りいたします。久留米高専の益々の発展を心より祈っております。今まで本当にありがとうございました。

## 久留米高専の思い出

学生課教務係(体育) 一般職員 松永 幸大



私は、昭和48年4月学生課実習係に採用、平成27年3月定年、令和2年3月再雇用終了と併せて47年間勤めさせていただきました。正に人生の半分以上を久留米高専で勤めさせていただきました。

学生課に行きまして色々な事があり、企業から求人挨拶にOB等が来校の際は頑張っている様子が覗えてホットする時がありました。こういう時は久留米高専に勤めていて良かったと思います。また、高専祭が近づいて応援練習で近隣住民から「応援の練習がうるさい」等で学校まで怒鳴り込んで来られることもあり、平謝りでこれも学生支援と思い、じっと我慢の日々でした。

最後に皆様のご健勝とご活躍、そして久留米高専の益々の発展を祈念し、お別れの言葉といたします。

## お世話になりました

教育研究支援センター 技術専門職員 吉武 靖男



8年前、久留米高専の技術職員( casting担当)として採用していただいたとき、 castingのことはほぼ知らず、2年間 casting実習のある機械工学科の学生の方が詳しいほどでした。5年前からは casting関係の研究を始め、九州工業大学大学院に社会人ドクターとして在籍させていただきました。そして今年度で博士の学位を取得できることになり、縁あって4月から北九州高専に助教として迎えていただくことになりました。

久留米高専での8年間は非常に楽しく、ここで得た経験は何ものにも代えられません。ここまで育ててくださった久留米高専の教職員の皆様、学生、そしてやりたいことをやらせてもらった職場環境に心より感謝致します。大変ありがとうございました。

## 工場見学旅行

## 東京見聞録

我々、機械工学科4年一同はまだ残暑厳しい9月の終わりに5日間の工場見学旅行に行ってきました。関東に赴き造幣局や鉄道博物館、ANA、資生堂など様々な分野の工場や施設の見学をしました。自分の興味のある分野だけでの見学ではなかったため、普段あまり触れることのない情報や知識を得ることができました。

見学中に施設の方やOBの方との交流や質疑応答を設けていただきました。その時間に自分の気になることについて詳しく聞くことができ貴重な体験をさせていただけたと思います。施設の方々にとっても丁寧で親切な説明をしていただいたためこれから始まる就職活動についても明確な目標を立てるきっかけになったと思います。それらは私たちにとって初めての経験といっても過言ではなく、これからの人生に大きな影響を与えるものでした。

なによりも私たちを成長させたのは5日間という時間で

## 機械工学科4年 小串 まゆか

す。いつもより長い時間一緒に行動することで見えてくる友達のあたらしい一面を知ることができました。実は知らなかったことが多くあったり、驚きの事実が判明したりと面白い出来事もたくさん起きました。さらに旅行中に移動で具合が悪くなった人がいたり、集合時間に集合場所に来ていない人がいたら周りの全員で協力したり、手を差し伸べることができました。これは社会人になってからの自己管理や他者との関わり合いにも役立たせることができると思います。旅行で過ごす時間の中で以前よりクラスメイトとも仲も深まったとおもいます。実際に旅行が終わってからも学校生活の中で一緒に過ごす時間が増えたり、休日も集まって遊んだりすることが多くなり充実した学生生活を送っています

工場見学旅行は私たちにとって、貴重で特別な思い出や経験が得られる素敵な思い出となりました。

## 工場見学旅行

## 工場見学旅行

電気電子工学科 4年 江崎 隼矢

私たち電気電子工学科の工場見学旅行は、担任のトヤ先生と副担任の原田先生引率のもと9月23日から9月27日の5日間にわたり行われました。場所は関東地区で東京・神奈川が中心でした。



初日は、鎌倉の大仏を見る予定でしたが飛行機のトラブルにより出発が遅れて急遽、赤レンガ倉庫を観光し、夜は予定通り中華街の散策を行いました。

2日目は、富士通(株)川崎工場様とJAXA調布航空宇宙センター様の見学をさせていただきました。富士通(株)川崎工場様では、リレー式計算機や画像処理を用いたAIによる体操競技の自動採点システム等からここ半世紀でのデータ処理技術の進歩を体験することができました。JAXA調布航空宇宙センター様では、風洞実験の小型体験装置で翼の傾きによる揚力の変化を学びました。また、国産飛行機YS-11のコックピット内の見学をさせていただき、外装の薄さには驚きました。

3日目は、(株)東芝府中事務所様と国立大学法人電気通信大学様の見学をさせていただきました。(株)東芝府中事務所様では、水素エネルギー活用センターで太陽光発電により発電した電力から水素を製造し運用するまでの工程を見学学ぶことができました。国立大学法人電気通信大学様では、様々な研究室を見学させていただきことで高専との違いを感じることができ、私は中でも「光と電波を用いた宇宙通信環境のリモートセンシング」の研究が特に印象的でした。

4日目は、自由行動で各自思い思いに一日を過ごし普段の生活では味わえないとても充実した一日になったのではないのかなと思います。

最終日は、ANA機体工場様の見学をさせていただきました。ANA機体工場様では、機体の整備や点検の様子を間近で見たり航空機の構造を下から見たりでき貴重な経験ができました。

今回の工場見学旅行は、来年進学・就職予定である私たちにとって進路を考えるための良い機会になったと思います。クラスメイト全員との旅行は新鮮でとても楽しかったです。それと同時にこの同じメンバーで旅行に行くことはないのかと思うと少し寂しい気持ちになります。

最後になりましたがこの見学旅行を計画していただいた先生方、旅行会社の方々、そして見学を許可していただいた企業・大学の方々に感謝したいと思います。

## 工場見学旅行

制御情報工学科 4年 大里 奈々香

本年度の制御情報工学科の工場見学旅行は担任の田中先生と中野先生の引率のもと行われた。

工場見学旅行は高専生活において誰もが楽しみにしているイベント、と言うのは過言かもしれないが大多数は楽しみにしているであろう。大多数であった私は3年生という修羅場をこのためにくぐり抜けたようなものだ。

私達のクラスは関東圏を選択した。1日目はソニー・エクスプローラーサイエンス、スカイツリーを観光。2日目・3日目は4つの施設、工場を見学。日産自動車横浜工場では、エンジンを作っているラインを見せて頂き、ロボットの保守メンテナンス、配置の仕方、工夫など様々なお話を伺った。座学では車が作られるまでの過程の説明を受けた。歴代のエンジンやモータ、ロビーにはGTRの展示もあった。JAXA筑波宇宙センターでは、普段入れない場所や実際に宇宙と通信を行っている場所も見学できた。工場見学では文字だけでは分からないその会社の雰囲気などを感じることができ、進路を考える上でとても貴重な体験になった。

4日目は自由行動。私の班は渋谷・原宿・新宿で食べ歩きをしたり、服を見たり。夜は分厚いステーキを食べ、とても充実した楽しい一日を過ごした。点呼に間に合うよう計画を立てておくこと、そして服を買うのはオススメしないと言っておく。5日目は浅草寺、日本科学未来博物館を観光。浅草寺でおみくじを引いたところ凶だった。この感想文を書いている今も学年末試験を控えつつ前期分の再試験を散々な結果に終えたばかりで次こそ留年するのはと怯えている。日本科学未来博物館では様々な展示や体験があり、思いのほか楽しめた。

ざっと感想を書いたが、この5日間の思い出はたったの半ページで書ききれものではない。

今はまだたくさんのことを鮮明に覚えている。これから忘れていくことが寂しくもある。それと同時に、いつか思い出話に花を咲かせることを楽しみにしている。



## 工場見学旅行

## 工場見学旅行の思い出

生物応用化学科4年 古澤 七海

私たち4年生は、1年生の時からずっと楽しみにしていた工場見学旅行に行ってきました。出発の日は台風の影響で飛



行機が予定通り飛ぶか心配でしたが、無事に飛んで東京へ着いたので一安心しました。みんながスーツを着ているという光景はとても新鮮で、少しずつ大人に近づいているんだなと実感しました。生物応用化学科は、DIC、JXTGエネルギー、不二製油工場へ工場見学に行きました。実際に工場を見ると、まずスケールの大きさに驚きました。すごく大きな装置をボタン一つで制御できるとも便利な時代ですが、安全確認は人の目できちんとみていて、どの会社も「安全第一」という会社理念があり、社会人になると責任が重くなるのだなと思いました。現場で働いている方々をみると、とても真剣に取り組んでいらっしゃいました。会社の高専卒の方のお話を聞かせてもらいましたが、「就職する＝勉強なくていい」ではなく、「就職する＝勉強する」ということに気が付きました。就職してもその会社が扱っているものの勉強をしなければならぬので勉強する姿勢を忘れずに今後の学校生活を送りたいなと思いました。

また、この工場見学旅行ではクラスへの愛も深まりました。一緒にご飯食べたり、部屋で話したり、観光したりしたことがとても楽しかったです。会社を訪問している時は真面目に、自由時間の時は楽しく、というメリハリをつけることのできるこのクラスが大好きです。

この5日間の工場見学旅行が有意義な時間だったのは、旅行計画を立てて下さった旅行会社の方、先生方、工場見学をさせていただいた会社の方、両親、友達のおかげだと思えます。本当にありがとうございました。



## 修学旅行の感想文

材料工学科4年 原 太一

修学旅行の感想文を修学旅行から半年くらいたったテスト終わりの2月上旬に書いてます。

4年材料工学科原太一です。

曖昧な記憶を頼りに感想を書きます！日記とかは書かない刹那の人間性なのでわざわざ日程を再確認したりしてませんのでご容赦ください。(前書きおわり)

一日目、当日の朝9時くらいに福岡空港に集合だったと思います。僕は30分くらいで移動できるツワモノだったので苦痛は感じませんでしたが、久留米からだ朝キツイと思うので時間遅めに調節したほうがいいと思いますね！

そのまま、飛行機で羽田空港まで1.5時間くらいで到着しましたね。

私は普段、授業が終わればすぐに帰路に直行してインターネットで自己研鑽を積む感じの人間なのですが、飛行機でこれから東京に向かうと思うとワクワクしました。機内では両サイドの人間圧でグッタリしてましたけどね。

たしかそのあとバスに乗ってスカイツリーにいきました。あんまり時間がなかったので最上階に行くのをあきらめて周辺にあったカービィのショップにいたらバスに遅刻しそうになりました。そのあと東工大に行ったはずですが、時間がなかったので両腕組みながら校内を一周しただけでした。

二日目、ほとんど工場見学だった気がします。いつものように真面目なフリをしながら立ってたら終わってました。ここで企業の宣伝をすると広告料をもらわないといけないのでどこにいったかは言いません。

三日目、四日目、どっちかが工場見学の日、自主研修の日でした。自主研修の話をする、長くてエキセントリックになるので割愛します。

工場見学はおもしろかったのですが、名前を出すと広告料が発生するので皆さんは行ってからの楽しみということ。

五日目、午前中に一個工場見学に行きとおんなじルートで帰りつきました。

僕は残りの夏休みを謳歌するため即座に帰りました。(こっからあとがき) そもそも日程の記憶すらあやふやですが修学旅行はこんな感じでした！参考になりましたか？修学旅行に行くときはちゃんと予定を立てたほうが楽しめると思います！

## 専攻科インターンシップ

## 専攻科インターンシップの感想

機械・電気システム工学専攻 1年 山下 純一

電気電子コースでは専攻科インターンシップを必ず履修しなければならない。僕は将来IT系の企業に就職を考えているため、IT系の企業でインターンシップを受け入れている会社を探していた。そんな中、受け入れてくださったのが久留米リサーチセンター内あるシステムラボラトリー株式会社だった。システムラボラトリーは、インターネットサーバーのシステム構築や官庁、大学、企業、プロバイダー等のシステム構築、ホームページの製作などOA機器・ネットワーク関連の事業から、マルチメディア情報通信システムの設計、施工、メンテナンスやAV機器、レンタル業務・国産メーカーの家電製品の販売、修理などの業務を行っている。実際僕の席の横の方はWebサイトやIoT機器の製作を行っていたのに対し、前の席の方は大学にディスプレイの施工工事を行っているなど、幅広い分野で業務が行われているのが印象的だった。

そんな中、僕がインターンシップ期間中に与えられた課題は、自分で事業を立案し銀行から資金調達する前提でキャッシュフローを構築し、発表するというものであった。僕が立案したのは「いいね」をお金に交換できて「いいね」をたくさん押せるSNSというもので、「いいね」をたくさん押せるSNSは他にないという点と気軽に好きなユーザーに「投げ銭」ができるという点で新規性があると考えた。しかしこれらの案から作成した最初のプレゼンでは、様々なユーザーのニーズに対応できていないことや、一つの仕組みで一つの問題しか解決できていないこと、キャッシュフロー全体でお金が回っていないことなど、実際の企業の方ならではの視点から厳しい意見を多数いただいた。これらの視点は学校にはみにつかない視点だったし、またそれを解決する過程で多くの技術的な情報や経済学的な知識を得ることができ、最終発表時には一定の評価を得ることにつながったので、とても良い経験をさせていただくことができた。

## 専攻科インターンシップを終えて

物質工学専攻 1年 根北 翔

私は、九州大学大学院総合理工学府物質理工学専攻柳田・長島研究室で3週間のインターンシップ研修をさせていただきました。柳田・長島研究室では、無機材料に関する新しい機能性ナノ構造とその機能の設計・創出に加えて、それらを活用した新規デバイスへの展開が実施されています。

私は、インターンシップ期間中に、酸化タングステン( $WO_3$ )という酸化物半導体を、ナノスケール(10億分の1mの領域)で構造設計し、ナノワイヤと呼ばれる一次元ナノ構造に形態制御しました。物質の形態をナノスケールで制御するためには、物質を合成する段階で、如何にしてその結晶が成長していくのかを理解することが必要不可欠です。そこで私は $WO_3$ の結晶成長メカニズムの解明を試みました。その結果、溶液内の供給原料濃度を精密に制御することで結晶面選択的な結晶成長が実現され、ナノスケールにおいて $WO_3$ の構造を設計することが本質的に可能であることが明らかになりました。

さらに、 $WO_3$ ナノワイヤが有する特性を調査するために、電子線描画技術を活用して単一ナノワイヤデバイスを構築した後、分子センシング特性評価を行いました。その結果、精密に構造設計した $WO_3$ ナノワイヤでは極低濃度の気体分子の検知に成功し、 $WO_3$ ナノワイヤ構造が持つ表面化学特性・巨大比表面積・電荷輸送の効果を実証することができました。

本インターンシップ研修では、デバイス構築のために、電子・電氣的なプロセスや有機材料などの専門外の分野の理解が必要で、それらを応用する必要があったため、何度も難局に直面しましたが、先生方や学生、博士研究員の皆様のおかげで、何とかやり抜くことができました。

インターンシップ研修を受け入れてくださいました柳田先生、研究にあたってご指導していただきました長島先生、Guozhuさん、相談にのってくださいました柳田・長島研究室の学生・博士研究院の皆様には感謝いたします。

## 高専祭

## 第54回高専祭を終えて

第54回高専祭実行委員長  
機械工学科4年 永尾 天崇真

令和元年11月2日(金)から3日(土)にかけて第54回高専祭を開催しました。天候にも恵まれ、たくさんの方にご来場いただきました。本当にありがとうございました。

今回の高専祭のテーマは、「高専祭のはかいこうせん！～こうかはばつぐんだ！～」でした。すべてを破壊するはかいこうせんのように常識を破壊し盛り上がる高専祭。年に1度のイベントをご来場の皆様、学生、その他たくさんの方々に全力で楽しんでいただける(効果は抜群な)高専祭にしたいという自分たちの熱い思いと重なり、良いテーマだったと思います。

また、今年は堤防工事の影響で駐車場が無い中の運営となりました。対策として臨時バスの手配を行いました。路線バスと乗り場が違うことを懸念していました。バスについてのプリントを学校からの郵便に同封したりSNSを活用し宣伝も行いましたが不安は大きかったです。しかし、当日の朝バスを手配してくださった方から「臨時バスですがJRで満員になったと運転手から連絡がありました！ここまで多いとは思っていませんでしたよ～」とお電話をいただきました。その時宣伝がうまくいった安心感とたくさんの方にご来場いただける予感で何とも言いえない高揚感があつたのを鮮明に覚えています。今年は臨時バスのほかカラーパンフレットなどたくさんの新しい試みを行いました。

この試みがご来場された方々の笑顔に繋がっていたらなによりです。

今回委員長という役を担わせていただくことで学んだ自分を支えてくれる仲間の大切さ、一人では感じることでできなかった達成感は今から先決して忘れることはありません。

本高専祭の大成功は、出店・展示・ステージ出演等にご協力いただいた皆様、教職員並びに学生課、後援会の皆様、運営を共に頑張ってくれた実行委員のみんな、そして何よりご来場いただいた皆様のおかげです。心より御礼申し上げます。来年は後輩たちが更なる高専祭を見せてくれることでしょう。また来年もぜひご来場ください！



## 体育祭

## 体育祭

体育祭実行委員会 実行委員長  
機械工学科5年 横須 晴彦

11月5日(火)雲一つない晴天に恵まれ、無事に第54回体育祭を開催することができました。平日の開催にも関わらず、大勢の保護者の方にご来場頂きましたことをこの場をお借りして御礼と感謝申し上げます。ちなみに毎年この時期は晴れが多らしく、雨によって中止になったことはほとんど無いらしいです。ありがたいですね～。

今年の高専生たちは例年通り元気であり、さらに真面目



でもありました。活気があふれる中に落ち着きもあって非常に良い雰囲気でした。その落ち着きのおかげもあり、なんと珍しく時間通りに体育祭を進めることに成功しました。そんな素晴らしい体育祭の委員長という大役を務めることができたこと、大変うれしく思っています。

今年の体育祭実行委員会は、約30名という例年よりはるかに少ない人数での運営となりました。それにもかかわらず、準備不足、時間が押すなどのトラブルが目立つものはなく、まさに少数精鋭でした。本当に実行委員のみんなの支えがないと、委員長としての経験をのびのびとすることはできなかったし、何より成功はあり得ませんでした。実行委員会に入ってくれたこと、1年間自分についてきてくれたこと、本当に感謝しています。

来賓の方をはじめとして、体育祭の開催にあたって協力して頂きました教職員の皆様、地域住民の皆様、学生の皆様方に体育祭実行委員一同心から感謝申し上げます。

## 予餞会

## 予餞会を終えて

予餞会実行委員会 実行委員長  
生物応用化学科5年 鬼木 秋実

令和2年1月25日(土)に予餞会を開催いたしました。何かと忙しい年度末ではありますが、多くの方にご来場いただきました。

今回のテーマは、「くるめこうせん、おわかれかい?〜もっマヂ無理。。思い出してぴえん〜」でした。テーマの中にある「ぴえん」という言葉は、若者の中で流行しているちょっとした悲しみや嬉しさで泣いている様子を表す言葉です。久留米高専から旅立つ今、たくさんの思い出がよみがえり「ぴえん」、レポートから解放されて「ぴえん」、5年間過ごしてきた仲間との別れに「ぴえん」、たくさんの「ぴえん」に溢れています。予餞会でも、恩師からのビデオメッセージや卒業生が最後に協力する舞台となる5年生コンテストという演目の中で、感動や友情で、「ぴえん」していただきたいという思いをこめ、このテーマとしました。

私事になりますが、昨年度は高専祭実行委員長を、今年度は中央執行委員長(学生会長)、体育祭実行委員総務長、情報セキュリティ委員長、そして最後に今回の予餞会実行委員長を務め、すべての任期を終えることとなりました。これほど多くの役職についていたのは、昔から上に立って全体を動かすことが好きだからなのですが、5年生になり、学生会活動や実行委員会に参加しているとき、ふと、思っ

たのです。なぜ、給料も発生しない学生会活動を運営しているのか、勉強やバイトをしたほうが、有意義に時間を使うことができるのではないかと。今年度は、私が私自身に学生会活動に参加する意味について問い、悩み、その答えを見つける一年でありました。そして、私が一年を通して考えに考え抜いた結論は「学生会を参加する意味を見つけるには早すぎる」ということでした。多分ですが、この5年間を通して、公文書を書く力や前に出て話す力などが身についたつもりでいますが、実感はしていません。しかし、これから先、そんな知らず知らず学生会で身についた力が気付かないうちに発揮され、その時初めて、それも自分自身によって意味付けされていくんだらうな、と今はそんなものとしています。というか、そんなものとするにしました。そして、意味がないことに対し、意味がないからしないのではなく、自分自身の手で意味付けをする。それは、人生を豊かにしていくことにもつながっていくような、そんな気がします。

学生会や実行委員会に所属し、学生の間でしか経験できない様々な役職を務めるができ、本当にうれしく思います。つたない運営でしたが、ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

## 後期クラスマッチ

## 後期クラスマッチを終えて

中央執行委員会 体育局局长  
材料システム工学科3年 長谷川 菜花

2019年12月11日(水)に後期クラスマッチが開催されました。

結果はドッジボール(学年別)優勝1E、2A、3A、4M、5S。

バスケットボール(低学年の部)1位2M、2位3A、3位2C、(高学年の部)1位5C、2位5A、3位5Eでした。

後期は前期よりも時間が限られていたためアンケート結果よりサッカーやバレーに変わる新競技としてドッジボールを行いました。ドッジボールは誰もが1度はしたことがありルールを知っているからこそ、細かいルール制定に苦労しました。それにきちんと盛り上がるか、安全に競技を行えるかなど新競技ならではの不安が多くありました。しかし試合を見に行ってみると声援が多くみなさん楽しんで競技をしている様子だったので安心しました。

局長になって2回目のクラスマッチだったので運営に慣れた部分もありましたが、アクシデントが起こった時は周

りの方々に助けられました。助けられる度に自分の不甲斐なさを実感し苦しかったですが、それと同時に周りの方々の優しさを感じました。不備が多くみなさんに迷惑をかけたと思いますが、クラスマッチ楽しかったと言ってもらえた時は本当に嬉しかったです。正直、局長の仕事がこんなに大変だとは思いませんでした。しかしこの1年間新しい挑戦の連続で様々な経験をする中で、自分に自信を持てたり、人の優しさを感じたりと大変だった分得るものが多かった気がします。頼りない私を支えてくださったみなさんありがとうございました。

最後に審判をしてくださった部活動さんや中央執行委員会の方々、学生課の方々などクラスマッチの運営に関わった全ての人に感謝申し上げます。ご協力頂き本当にありがとうございました。みなさんの力がなければクラスマッチは成り立たなかったと思います。次のクラスマッチは新しい局長が運営します。その時もお協力よろしく申し上げます。

## 寮行事

## 寮行事

寮生会広報委員長 脇上 敦史

## 冬の寮祭

12月7日に冬の寮祭が行われました。文化委員長が中心となってイベントを企画し、多数の寮生が参加しました。まず、午前中には餅つきが行われました。今年度は研究のために半年ほど滞在している外国人聴講生も参加し、楽しい時間を過ごしました。午後からは近くのボウリング場へと移動し、ボウリング大会が行われ、寮生みんながのびのびとプレーを楽しみました。ボウリング大会の後は、学生寮へ戻りバーベキューパーティーを楽しみました。寮生たちは談笑しながら、みんなで準備して美味しく食事をいただきました。一日かけてのお祭りを通し、寮生は学年を超えて大いに親睦を深めることができました。



## 成人式

1月8日、令和元年度学生寮成人式を開催し、40名（うち海外からの特別聴講生1名）の成人を、寮生及び寮務関係の教職員で祝福しました。式では、下級生を代表して寮長から祝辞があり、その後、前寮長が新成人代表として謝辞を述べました。両者とも、ユーモアの中に今後の寮運営についての意見を込めた素晴らしい挨拶でした。自由には責任が伴うということについて、中寮寮務主事から新成人へ激励の言葉が贈られた後は、和やかな食事会となりました。これから就職や進学を予定している上級生は特に、残り少ない寮生活を惜しむように、次から次へと会話が弾んでいました。



## 国際交流

## トビタテ留学で経験したこと

生物応用化学科3年 筒井 綾香

私は、約3週間カナダのバンクーバーにトビタテ留学 JAPAN を利用して語学留学しました。この留学で私は3つの活動をしました。1つ目は、アンケート活動です。バンクーバーで観光客の多い、ガスタウンを中心に日本の菓子の認知度、使用経験、どんな菓子が必要だと思うかを街頭インタビューしました。2つ目は、ブリティッシュコロンビア大学の薬学部、サプリメント会社へのインタビュー活動です。大学では、菓子の歴史や菓子の作用など薬について詳しく知ることができました。また、サプリメント会社では、サプリメントができる工程や、サプリメントの作用について知ることができました。3つ目は、アンバサダー活動といい、日本の良さを発信する活動です。私はこの活動で、日本の伝統行事であるひな祭りを紹介し、ちらし寿司を作りました。ホストファミリーは“Japanese sushi”と言って喜んでくれました。そして、この3つの活動を通して、私自身多くの成長がありました。その1つとして、私は留学してから、2～3日目は内気になってしまい自分から現地の人に話しかけれなかったけど、1週間が経過してからは英語がスムーズに話せないことを気にせず、積極的に自分から話しかけるようになりました。実際に自分から話しかけたことで、韓国、フィリピン、ブラジル、メキシコ、ドイツなど多国籍の人と友達になれました。これは、今の私にとっての強みです。そして、留学前の「菓子の研究者になる」という目標が「発展途上国などで日本では助かるはずの子供が多く亡くなっている現状を変えたい」という具体的な目標になりました。この目標を達成するために自分自身が実際に発展途上国に行き、ボランティア活動を行うなど積極的に行動したいです。そのためにも今は、知識を増やしていくために専門分野の勉強を頑張ります。



## 国際交流

## 高専生がタイに行ってみた

電気電子工学科5年 パディージャ 大樹

9月某日、私はタイにいた。我が校はタイの大学である KMITL との交流があり、今回私はこの交流事業の一環となるプログラムに参加した。プログラムの目的は学生のコミュニケーション能力の向上や異文化理解。10名弱の学生がタイを訪れ現地の学生との親睦を深めた。

プログラム初日、ホテルの部屋に入ると迎えてくれたのは蚊の大群。勘弁していただきたいものである。しかし嬉しいことに新しい友達であるヤ・モリ氏にも出会えた。かべちよである。

その日はホテルのレストランでディナーを食べた。タイっばい何かを注文し、タイではじめての食事を食べたが、すごい。甘味、塩味、酸味、苦味、うま味の全てが同時に味わえる味覚のハッピーセット。しかもめっちゃ辛い。唐辛子浮いてるしw 初日にして洗礼を受けた。

翌日、KMITLでの歓迎セレモニーの後、キャンパス内の施設を見学した。図書館はとにかく大きく、売店、映画館、カラオケボックス完備。いいなー。別日には研究室見学もさせていただき、食品工学科(?)の研究室では校内で採れたマンゴーで作ったジュースなどを振舞っていた。そこでの機材は久留米にある工場が製造したらしく、身近な繋がりを感じることができた。別の研究室には仙台高専の学生さんがインターンで来ていた。やっぱり世の中狭い。ともあれ、いただいたマンゴーのお菓子、めっちゃおいしかった(笑)。

また、KMITLでの授業を見学させていただいた。授業は英語のみであったり、英語とタイ語の両方で行われていたり、印象的であった。先生がタイ語で話しているときにもオキシジェン(oxygen)などの専門用語だけは聞き取れたのが面白かった。

最終日には自由研修があったり、タピオカデビューしたり、現地の学生と遊んだり、日本の野菜の美味しさに感動したりと、タイではとても充実した毎日を送ることができた。高専生活5年間で一番参加してよかったと思えるプログラムでした。高専生のおまえら、悪いこと言わないから英語勉強しとけ。楽しいぞ。



## ベトナムでの国際シンポジウムを経て

物質工学専攻1年 川戸 勇人

これまでの高専での研究活動で、研究室に留学生が来た時や、学会のセッション時に英語で研究の説明をする機会があったが、英語力に自信がなく消極的になってしまい、うまく説明する事ができなかった。そのため英語でのディスカッション能力改善をしたいと思い、今回の国際シンポジウムに参加した。シンポジウムでの発表形式はポスターを使った口頭発表で、1人ずつ15分程度の研究発表および10分程度の質疑応答を行い、積極的な英語でのディスカッションが行われた。また研究発表以外にも校内の案内や共同の昼食会が開催され、その中でもベトナムの学生とお互いの国の文化や研究内容についてのディスカッションを行った。

今回のベトナムでの研究発表の経験で専門用語等の英語知識が深まり、積極的に英語を使って説明する事ができるようになったと実感している。今回の研究発表および国際交流を行う以前、海外の学生とコミュニケーションをとる機会はほとんどなく、ベトナムについての知識もなかったが、学生間の交流や食文化、環境などに触れていく中でベトナムの文化についての知識も深めた。またベトナムの学生とは帰国後も交流を深め、SNSでコミュニケーションをとっている。そのため普段から英語を使用するきっかけになり、研究の進捗等を報告し合っって切磋琢磨することができている。

このように日本では得られない経験をすることができ、今後の研究活動において貴重な財産となった。

最後に、今回の国際シンポジウム参加にあたり、ご指導・引率して下さった材料システム工学科の奥山先生、山本先生に深く感謝申し上げます。



## 第25回高専シンポジウム in Kurume

## 第25回高専シンポジウム in Kurume を終えて

第25回高専シンポジウム実行委員会  
委員長 中嶋 裕之

令和2年1月25日(土)、久留米シティプラザにおいて「高専の男女共同参画を考えるー女性エンジニアの活躍する社会に向けてー」をテーマに第25回高専シンポジウム in Kurumeが開催されました。

全国44高専から高専生316名、高専教職員168名のほか、大学関係者等を含め約570名の参加がありました。開会式では国立高専機構の谷口功理事長並びに創設者の鳥井昭美名誉会長より祝辞をいただきました。基調講演には、i P S細胞を用いた生殖医療の研究をされている山城知佳氏をお招きしましたが、山城氏が沖縄高専のご出身でもあることから、さらに氏以外の全国高専出身の女性エンジニア3名を加えたパネルディスカッションも開催しました。パネリストの方々の高専時代や現在の仕事の経験を交えたお話に、聴衆者にとって有意義な討論となりました。

一般の研究発表は、口頭発表180件、ポスター発表204件の合計384件でしたが、学生発表には従来の「ポスター発表賞」に加え、「口頭発表賞」、また特に優秀だった発表に対してはさらに国立高専機構から「高専機構理事長賞」、長岡・豊橋両技術科学大学からそれぞれ「技術科学大学学長賞」が授与され、今後の学生さんのモチベーションアップにつながることを期待しています。一般公開の3高専(有明高専、熊本高専、久留米高専)による「高専ハカセ塾におけるジュニア学会」では小中学生による堂々としたポスター発表の姿が印象的でした。また、久留米高専松田康雄特任教授による和算のわかりやすい説明や本シンポジウム25周年記念展示も好評でした。

無事シンポジウムを終えることができましたのも、学校行事として取り上げてくださった三川校長先生を始め、開催準備から当日の運営に携わってくださった教職員の皆様、学生スタッフの皆さまのご協力によるものです。心より感謝申し上げます。



高専出身女性エンジニア4名によるパネルディスカッション

## 学生表彰

## ISPACS 2019 受賞報告

機械・電気システム工学専攻2年 平川 智也



台湾と言ったらタピオカ、日本で突如として人気を醸し、いつの間にか我々の生活に溶け込んできたタピオカ。台湾では日本の4分の1くらいの価格で売って

いました。ミーハーな私は「1日2タピオカ」を目標に掲げ、1週間程の滞在で、かなりの量を飲みました。飲みすぎて便秘になりましたし、太りました。飽きました。いい経験です。また、台湾には九份という「千と千尋の神隠し」の世界観を彷彿とさせる幻想的な街があります。不意に湧き出る提灯色への感情に浸りながら、ぶらぶら歩いていると、またそこにはタピオカのお店が。「もういいよ…」と心中でぼやき、拒否しているにもかかわらず、数分後、私の左手にはLサイズのタピオカミルクティーが。潜在意識とは恐ろしいものです。

そんなわけで、2019年12月に台湾(台北)で開催された国際会議International Symposium on Intelligent Signal Processing and Communication Systems (ISPACS)にて研究発表を行い、Best Student Paper Award(最優秀学生論文賞)を受賞しましたので報告いたします。国際会議で発表するにはまず、英論文を書き、査読してもらう必要があります。採択されたら発表できます。さて、私が初めて国際会議に参加したのは本科5年生の冬。タイで行われた会議で、成人式と日程が被り、象にまたがる私に現地のおじさんがタイ語で成人祝いの言葉(おそらく)を投げかけてくれたのを思い出します。その会議に向けて、人生で初めて書いた英論文を先生に添削してもらおうと、マーカーで真黄色に染まった論文が返ってきたのを覚えています。時は流れ、今回で4度目の国際会議への参加。徐々に、書いた論文への先生の添削量が減り、今回はほぼ添削なしで投稿しました。無事に採録通知のメールが届き、更には「貴方の論文は論文賞にノミネートされています(意訳)」といったメールが届いたときには、私自身の成長が形となった感じがし、自信になりました。多くの貴重な経験を積ませてくれた指導教員の黒木先生への感謝をもって報告を終えたいと思います、ありがとうございました。

## 学生表彰

## ISIPS 2019 受賞報告

機械・電気システム工学専攻 2年 溝上 智仁

北九州にて開催されたシンポジウム、ISIPS 2019にて Best presentation awardを受賞いたしました。このシンポジウムは早稲田大学大学院情報生産システム研究科が主催しているのですが、そこは私の進学先であるため先輩方がどのような研究をされているのかを知るために参加しました。

ISIPS 2019の参加者は私より年上の方ばかりで、初日は委縮しつつ他の方の研究発表をお聞きしていました。発表される研究分野は私が専攻している情報工学分野のみならず、生産システム分野や集積システム分野も含まれます。発表は全てB1サイズのポスターを用いるため、普段は縁のない研究について1対1で質問させていただき貴重な経験をしました。

参加者の多くは中国出身の方々に英語でのプレゼンがともお上手で質疑応答も難なくこなされており、尊敬すると同時に私へのプレッシャーもうなぎのぼりです。前日はお酒を控え、ホテルで発表練習を7回ほど繰り返しましたがソワソワしてなかなか寝付けませんでした。迎えた発表当日、私が発表するセッションにも多くの方がいらっしゃいました。もちろんその中には私と研究分野が遠い方々もいらっしゃり、練習した発表内容だけではうまく伝えられない場合もありました。慣れない英語での研究に関する質疑応答ということもあり、何度も質問を繰り返していただきましたが、何とか私の研究の主張をお伝えしました。すると、全8セッションそれぞれの優秀者のうちの1人として選ばれ、Prize selection sessionにて発表させていただきました。そこでも私のすることは変わらず、見に来てくださった方に精一杯私の研究の意義をお伝えすることだけです。その結果、Best presentation awardという名誉な賞をいただきました。この賞をいただけたのは、今回の研究についてはもちろん、3年間不器用な私に根気強く指導をしてくださった黒木先生と、多くの議論に付き合ってくれた2人の同期のおかげです。心より感謝申し上げます。



## 各種コンテスト及び体育大会優秀結果一覧

## 第54回全国高等専門学校体育大会の主な成績

(8月17日～9月1日)

競技種目	種目詳細	成績	備考
陸上競技	男子100m	第2位	
柔道	女子52kg級	第3位	

## 第56回九州沖縄地区高専体育大会の主な成績

(6月29日～7月22日 ※ラグビーは11月9日～12日)

競技種目	種目詳細	成績	備考
陸上競技	男子100m	優勝、第2位	
	男子200m	優勝	
	男子走幅跳	第2位	
	男子三段跳	第2位	
	男子走高跳	優勝	
	女子100mH	優勝	
	女子砲丸投	優勝	
	男子4×100mリレー	優勝	
水泳	男子200m個人メドレー	第2位	
ラグビーフットボール		優勝	
硬式野球		優勝	
バスケットボール	男子	第2位	
柔道	女子52kg級	優勝	
バレーボール	女子	優勝	

## 全国高等専門学校第30回プログラミングコンテスト

チーム名称	メンバー氏名	成績
紫陽花になったなめくじのように	・樋口 陽介 ・稲田 雄大 ・佐伯 勇太	競技部門 第3位

## 第15回全日本学生室内飛行ロボットコンテスト

表彰学生氏名	表彰内容
鳥部 (チーム名「げなげな」)	飛行競技一般部門 第3位 JAXA賞

## 日本鑄造工学会第173回全国講演大会

表彰学生氏名	表彰内容
今村 直也	学生優秀講演賞

## 令和元年度合同学術講演会

表彰学生氏名	表彰内容
松永 啓吾	ポスター賞

## 第10回管打楽器ソロコンテスト

表彰学生氏名	表彰内容
小森 悠矢	高等学校の部 金管部門 第1位

## 4th STI-gigaku 2019

表彰学生氏名	表彰内容
志岐 瑞帆	Best Poster Award

## 坊ちゃん科学賞研究論文コンテスト (高校部門)

表彰学生氏名	表彰内容
田口 凜人	佳作

## 第11回半導体材料・デバイスフォーラム

表彰学生氏名	表彰内容
中西 賢斗	ポスター発表最優秀賞

令和元年度 大学編入学合格状況等

令和2年2月末時点

大学名	合格者数					計
	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科	
東北大学(工)	1				1	2
東京工業大学(工学)			0	1	0	1
東京農工大学(工)				1		1
お茶の水女子大学(理学)			1			1
信州大学(工学)					1	1
京都工芸繊維大学(工芸科学)				1		1
大阪大学(工学)	0	1	0		0	1
広島大学(生物生産学)				2		2
九州工業大学(工学:推)	2	1	2		1	6
九州工業大学(工学)	0	0	1			1
九州大学(工学:推)	2	0	0	2		4
九州大学(工学)	1	2	0	2	1	6
熊本大学(工学:推)			1	0		1
熊本大学(工学)	3	0		0	1	4
筑波大学(理工学)		1				1
筑波大学(情報学)			1			1
長岡技術科学大学(生物機能)				2		2
豊橋技術科学大学(工学:推)		1				1
豊橋技術科学大学(工学)		1				1
豊橋技術科学大学(応用化学)				5		5
豊橋技術科学大学(機械工学:推)	1				2	3
豊橋技術科学大学(機械工学)					2	2
東京海洋大(生命科学:推)				1		1
首都大学東京				1		1
佐賀大学(理工学)	1		2	3	0	6
佐賀大学(農学)				2		2
宮崎大学(工学)	1					1
山口東京理科大学(工学)			1			1
モンゴル科学技術大学	1					1
合計	13	7	9	23	9	61

令和元年度 久留米高専専攻科合格状況

令和2年2月末時点

大学名	合格者数					計
	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科	
久留米高専専攻科(推)	3	4	1	4	3	15
久留米高専専攻科(学)前期	3	7	3	5	2	20
久留米高専専攻科(学)後期	3	3	0	1	3	10
合計	9	14	4	10	8	45

令和元年度 専攻科・大学院合格状況

令和2年2月末時点

大学名	合格者数		計
	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	
東北大学大学院(情報科学科)	1		1
東京大学大学院(学際情報学府)	1		1
東京工業大学大学院(生命理工学院)		1	1
東京工業大学大学院(物質理工学院)		1	1
東京大学大学院(新領域創成科学研究科)	1		1
名古屋大学大学院(工学研究科)		1	1
大阪大学大学院(工学研究科)	3		3
大阪大学大学院(情報科学研究科)	2		2
九州大学大学院(総合理工学府・推)	2	3	5
九州大学大学院(総合理工学府)	8	4	12
九州大学大学院(統合新領域学府)	1	1	2
北陸先端科学技術大学院大学(推)	2		2
北陸先端科学技術大学院大学(物質科学領域)		1	1
早稲田大学大学院(情報システム研究科)(推)	2		2
早稲田大学大学院(情報生産システム研究科)	1		1
合計	24	12	36

令和元年度(令和2年3月)卒業予定者の就職内定状況

令和2年2月末時点

機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科
株式会社小松製作所 凸版印刷株式会社 西日本旅客鉄道株式会社 三菱重工冷熱株式会社 昭栄化学工業株式会社 株式会社カンセツ 株式会社モリタ製作所 三菱ガス化学株式会社 本田技研工業株式会社 株式会社ディスコ 株式会社LIXIL ソニーグローバルエレクトロニクス株式会社 オムロンフィールドエンジニアリング株式会社 旭化成株式会社 日鉄ハードフェイシング株式会社 九州電力株式会社 キャノン株式会社 株式会社SUBARU 株式会社マツダE&T 株式会社 安川電機 株式会社 オーレック	株式会社モリタ製作所 株式会社NTT東日本 ANAベースメンテナンステクニクス株式会社 キャノンシステムアンドサポート株式会社 株式会社ラック サントリースピール株式会社 株式会社栄電舎 オリックス・ファシリティーズ株式会社 中国電力株式会社 株式会社九州栄電社 株式会社MJC キャノンメディカルシステムズ株式会社 九州電力株式会社 株式会社IHインフラシステムズ 住友電設株式会社 ANAベースメンテナンステクニクス株式会社	株式会社日立ビルシステム AJS株式会社 株式会社トヨタプロダクションエンジニアリング 株式会社 ラック ウォンテッドリー株式会社 AMECコンサルティング株式会社 株式会社トヨタプロダクションエンジニアリング 水King株式会社 中国電力株式会社 三菱電機ビルテクノサービス株式会社 株式会社ウィナス 株式会社NTTデータ 中部電力株式会社 日本ビジネスシステムズ株式会社 NECフィールディング株式会社 株式会社日本ビジネスエンジニアリング 株式会社ラック 九州電力株式会社 東芝ITサービス株式会社 武井電機工業株式会社 株式会社日本ビジネスエンジニアリング 株式会社九州栄電社 三菱電機システムサービス株式会社 株式会社 栄電舎	DIC株式会社 住友精化株式会社 株式会社西部技研 株式会社資生堂 三洋化成工業株式会社 株式会社神戸工業試験場 株式会社日本触媒 JXTGエネルギー株式会社 花王株式会社 出光興産株式会社 株式会社東洋新薬 第一三共ケミカルファーマ株式会社 JXTGエネルギー株式会社 KMバイオロジクス株式会社 株式会社東洋新薬	株式会社東研サーモテック TOWA株式会社 MHIソリューションテクノロジーズ株式会社 アスカコーポレーション株式会社 特殊電極株式会社 サントリースピリッツ株式会社 株式会社ディスコ 株式会社栗本鐵工所 日本冶金工業株式会社 積水化学工業株式会社 ユニチカ株式会社 TANAKAホールディングス株式会社 三谷伸銅株式会社 西部ガス株式会社 株式会社アイリー 新菱冷熱工業株式会社 株式会社アーレスティ トヨタ自動車九州株式会社 東プレ株式会社 株式会社フルヤ金属 川重車両テクノ株式会社 株式会社LIXIL JX金属株式会社 三井金属鉱業株式会社 株式会社神戸製鋼所

順不同

令和元年度(令和2年3月)専攻科修了予定者の就職内定状況

令和2年2月末時点

機械・電気システム工学専攻		物質工学専攻
株式会社安川電機 株式会社オーレック	ANAベースメンテナンステクニクス株式会社 株式会社富士通九州システムズ	株式会社東洋新薬 株式会社神戸製鋼所

順不同

本号掲載記事の無断転載を禁止します